

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 30 日現在

機関番号：64401

研究種目：基盤研究(A)

研究期間：2009～2013

課題番号：21241059

研究課題名(和文) モンゴル・中央アジアにおける社会主義的近代化に関する比較研究

研究課題名(英文) A Comparative Study of Socialist Modernization in Mongolia and Central Asia

研究代表者

小長谷 有紀 (KONAGAYA, Yuki)

国立民族学博物館・民族社会研究部・教授

研究者番号：30188750

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 22,100,000円、(間接経費) 6,630,000円

研究成果の概要(和文)：モンゴルおよび中央アジア諸国において20世紀に人びとが経験した社会主義時代の生活上の大きな変化について理解を深めるために、写真やポスターなどの公的な画像記録と、それらによって喚起される人びとの私的な記憶を収集した。とくに、高齢者の語りを人生史として収集した。公的な記録と私的な記憶のずれや、地域による違いなどから、社会主義的近代化プログラムの画一性と、地域によって異なる文化的な多様性を明らかにした。

研究成果の概要(英文)：We collected public visual records such as news photographs and posters, and the personal memories of people that were stimulated by those materials, related to the everyday lives they experienced during the socialist period in Mongolia and Central Asia, and through them revealed both the uniformity of the socialist modernization program and the cultural diversity of each separate region.

研究分野：複合新領域

科研費の分科・細目：地域研究

キーワード：社会主義 近代化 オーラルヒストリー ナラティブ モンゴル 中央アジア ウズベキスタン クルグズスタン

## 1. 研究開始当初の背景

社会主義時代の終焉に伴って、モンゴル研究は国際的に活況を呈するようになり、とりわけ市場経済への移行をいざなう開発分野での新規参入者による研究が展開した。そうした「移行のための移行期における研究」は、ポスト社会主義以降の新規参入者によることが多く、もっぱら英語で実施された。そうした研究は往々にして現地の社会や文化に関する情報を取り込みにくく、また過去の研究蓄積を取り込むことも少ないという2つの問題をはらんできた。

このような言語的な障壁は、社会主義時代の近代化の歴史とその成果としての社会や生活が顧みられないという内容上の障壁を伴うものであった。すなわち、もはやイデオロギーによる支配のない時代であるにもかかわらず、社会主義のもとで近代化を進めてきた地域に対する理解は今なお、見えないイデオロギーによって阻まれてきたのである。

こうした地域研究の傾向は、モンゴルのみならず中央アジアもまた同様であり、中央ユーラシア地域に対する理解を阻む大きな要因となっている。

## 2. 研究の目的

(1) 社会主義的近代化に関する記録と記憶の収集

ポスト社会主義時代のユーラシア研究において相対的に顧みられなくなった、社会主義時代に対する理解を促進するために、社会主義時代の「記録」や「記憶」に注目している研究者たちが集まり、それぞれの地域における「記憶」を「記録」とともに収集する。

### (2) 地域間の比較考察

扱う地域は主として、モンゴル、ロシア連邦ブリヤート共和国、クルグズスタン(キルギス)、ウズベキスタンである。さらに比較のために、中国内モンゴル自治区やカザフスタンも参照する。

これらの地域間で比較することによって、社会主義的近代化プログラムのグローバルな均一性と地域的・文化的な多様性を明らかにする。研究の成果は、国際政治や環境学など学際的かつ国際的に発信し、諸分野において地域研究のもつ基礎情報の提供能力の高さを示す。とくに、現代の開発プログラムにおいて社会的文脈の理解に資する。

## 3. 研究の方法

(1) 地域ごとに社会主義時代の記録と記憶を収集する。

公的な言説(Public Narrative)としてプロパガンダ用のポスターや、新聞・雑誌等の写真など画像資料を収集する。それらの画像資料を援用しながら、私的な言説(Private

Narrative)として、社会主義時代の記憶を収集し、口述史(Oral History)として再構成する。

公的な言説と私的な言説のずれを明らかにすることによって、社会主義的近代化のプログラムが現在、どのように受け止められているかを明確にする。

(2) 同様の方法を広域的に用いることによって、地域間比較をおこない、社会主義的近代化プログラムの均一性と地域的・文化的多様性を明らかにする。

## 4. 研究成果

(1) 社会主義的近代化に関する公的言説の資料収集

新聞や雑誌などに代表される公的な言説のなかでも、人びとの記憶を刺激するものとして画像資料(images)に注目し、プロパガンダ・ナラティブとして収集した。以下のような戦術により、限定的に収集した。

モンゴルについては、人民党(旧人民革命党)の資料館と協力し、同館が所有するポスターをスキャンしたのち、内容に応じて分類し、キリル文字によるモンゴル語テキストを付した。さらに英訳し、英文による解説を付した。現在、イギリスで出版のための作業中である。

ロシアおよび中国についてはポスター集が刊行され、それらを分析する研究も蓄積されつつあるのに対して、これまでモンゴルのポスターは一部刊行されているものの、ポスター集としては刊行されておらず、非常に貴重な研究資料として国際的に注目されるだろう。

ウズベキスタンについては、公的な記録写真を収集した。とくに、1920年代後半から1940年代の初期社会主義建設期を対象として、おもに『ブラウダ・ヴォストーカ(東方の真実)』紙上に掲載された女性の表象に関連する写真約500点を整理し、キャプションをつけて、簡易データベースを構築した。イスラム世界におけるジェンダー研究にとって、非常に有益な資料となるだろう。

クルグズスタンについては、公的な写真集(アルバム)を入手し、語りの誘引剤として利用した。

(2) 社会主義的近代化に関する私的言説の収集

私的な言説として、写真を見ながら発せられる「思い出」というヒアリング手法による記憶と、個人史全体を聞き取るオーラルヒストリー(口述史)を収集した。

モンゴルおよびブリヤートについては、農業、宗教、越境移動などを中心に口述史を収集し、それぞれ資料集として刊行した。

ウズベキスタンについては、伝統的な都市コミュニティ、女性解放運動を中心に口述史を収集し、前者については資料集を刊行し、後者については論文を刊行した。

クルグズスタンにおけるヒアリング手法によって、工場など社会主義に新たに作られたものについての記憶は社会主義時代に対して肯定的な評価をもたらし、牧畜など社会主義以前からあり改変を受けたものについての記憶は社会主義時代に対して否定的な評価をもたらすことが明らかになった。

### (3) 地域間比較のための国際発信

本研究組織内での比較のほか、さまざまな国際会議等で事例報告をおこない、より広域的かつ学際的な比較考察に資した。とくに、オーラルヒストリーの資料は英訳刊行後、さまざまな研究に利用されるようになった。比較によって社会主義的近代化に関する人びとの評価として以下のような点が明らかとなった。

評価の二面性：教育や衛生など、プラスに評価されやすい側面と、経済活動の限定や強制移住など、マイナスに評価されやすい側面とがある。このような二面性は地域を越えて共通している。基本的に、社会主義的近代化によって新たに生まれたものはプラスとして評価されやすく、改変されたものはマイナスとして評価されやすい。近代化プログラムの均一性を反映している。

出自による評価の違い：モンゴルの場合、貴族たちは社会主義時代に没落したため、評価が低く、庶民たちは社会主義時代に出世したため、評価が高い。このような出自による違いは、イスラーム圏ではさほど顕著ではない。近代化プログラムの地域差、文化差を反映している。

移行状況による評価の違い：モンゴルではすでにポスト移行期とでもいえる経済活況の時代を迎えているため、「喪失の語り」は収束した。一方、クルグズスタンでは「喪失の語り」がいまだおこなわれており、移行期すなわちポスト社会主義の時代が続いている。言い換えれば、「喪失の語り」が社会的に終焉した時点で、移行期は完了し、ポスト移行期に入ったと判断してよいだろう。近代化プログラムからの離陸の差を反映している。

### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計32件)

Timur Dadabaev, Chinese and Japanese Foreign Policies towards Central Asia from a Comparative Perspectives, Pacific

Review, 査読有, 27-1, 2014, pp. 123-145

DOI: 10.1080/09512748.2013.870223

Timur Dadabaev, Shanghai Cooperation Organization: Regional Identity Formation From the Perspective of Central Asian States, Journal of Contemporary China, 査読有, 23-85, 2014, pp. 102-118

DOI: 10.1080/10670564.2013.809982

Timur Dadabaev, Japan's search for its Central Asian policy: Between idealism and pragmatism, Asian Survey, 査読有 53-3, 2013, pp. 506-532

DOI: AS53.3.2013.506.

Timur Dadabaev, Recognitions of Emerging Hybrid Ethnic Identities in Soviet Central Asia: The case of Uzbekistan, Nationalities Papers: The Journal of Nationalism and Ethnicity, 査読有 41-6, 2013, pp. 1026-1048

DOI: dx.doi.org/10.1080/00905992.2013.774340

Timur Dadabaev, Community Life, Memory and a Changing Nature of Mahalla Identity in Uzbekistan, Journal of Eurasian Studies, 査読有, 34, 2013, pp. 83-95

DOI: 10.1016/j.euras.2013.03.008

Chika OBIYA, Turkestanskii Sbornik as a Compilation of Colonial Knowledge: Focus on its Indexes, CIAS discussion paper, 査読無, 35, 2013, pp. 6-15

島村一平、八木風輝(共訳)、モンゴル国のカザフ人の歴史、人間文化(滋賀県立大学人間文化学部研究報告) 査読無、34、2013、pp. 83-95

Timur Dadabaev, Between the State and Society: Position of Mahalla in Uzbekistan, Eurasia Twenty Year After, 査読有, 1, 2012, pp. 153-171

Timur Dadabaev, Securing Central Asian Frontiers: Institutionalization of Borders and Interstate Relations in Post-Soviet Central Asia, Strategic Analysis, 査読有, 36-4, 2012, pp. 554-568

Timur Dadabaev, The Evolution of the Japanese Diplomacy towards Central Asia since the collapse of the Soviet Union, OSCE Yearbook 2011, 査読有, 17. 2012, pp. 441-458

Yuki KONAGAYA and Ai MAEKAWA, Characteristics and Transformation of the Pastoral System in Mongolia, The Mongolian Ecosystem Network, 査読無, 2012, pp. 9-21

Yuki KONAGAYA, The Impact of Agricultural Development on Nomadic Pastoralism in Mongolia, The Mongolian Ecosystem Network, 査読無, 2012, pp. 255-267

帯谷知可、「民族」の成立と国境画定、朝倉世界地理講座-大地と人間の物語 5、査読無、2012、pp.183-195

吉田世津子、「遊牧民」の現在、朝倉世界地理講座-大地と人間の物語 5、査読無、2012、pp.143-153

吉田世津子、家屋を建てる-旧ソ連中央アジア北部クルグズ農村における世帯形成とキョウダイ、共存の論理と倫理、査読無、2012、pp.73-95

島村一平、国境を越えるシャーマニズム、マド化する宗教、浮遊する共同性：現代東北アジアにおける「救い」の位相、査読無、2011、pp.81-126

小長谷有紀、渡邊三津子、中央ユーラシアの社会主義的近代化-カザフスタンとモンゴルの対比から、中央アジア環境史、査読無、3、2011、pp.5-22

帯谷知可「フジウムへの視線-1920年代ソ連中央アジアにおける女性解放運動と現代」査読有、小長谷有紀・後藤正憲（共編）『社会主義的近代化の経験』2011、pp.98-122

Yuki KONAGAYA, Socialist Modernization in Mongolia as Narrated after Socialism, Inner Asia, 査読有, 12-1, 2010, pp.5-23

Timur Dadabaev, Power, Social Life, and Public Memory in Uzbekistan and Kyrgyzstan, Inner Asia, 査読有, 12-1, 2010, pp.25-48

〔学会発表〕(計 22 件)

Ippei SHIMAMURA, Shamanism and Ethnicity of Buriyat Mongol, Seminar of Mongolian Academy of Sciences, 2014.3.20, (in Mongolian), Ulaanbaatar, Mongolia

Timur Dadabaev, New Names, Old Habits: Finding Difficulties in Transforming Political Culture in Central Asia, Cambridge Central Asian Forum, 2014.3.14, Cambridge University, UK

Yuki KONAGAYA, The Origins and Evolution of Strategic Partnerships in Indigenous Societies: Strategy in the Past and Tactics in the Present, The Russian-Chinese Border: A Strategic Partnership in Mosaic of Indigenous societies, 2014.1.9, National Museum of Ethnology, Japan

吉田世津子、「ソ連時代の思い出」と体制転換再考、キルギス日本学生フォーラム、2013.10.18、筑波大学

Nachin, Yuki KONAGAYA, Daily herding and seasonal migration in the Mongolian nomadic pastoral livestock, IUAES the 17th world conference, 2013.8.5, Manchester, UK

Maqsooda S., Yuki KONAGAYA, Mongolian

women's Life trajectories influenced by Perestroika, The History of Perestroika in Central Asia, 2013.5.31, Bishkek, Kirgistan

Timur Dadabaev, From Economic Reforms to the Politics of Perestroika: Retrospective of Expectations and Everyday Life in Central Asia, The History of Perestroika in Central Asia, 2013.5.30, Bishkek, Kirgistan

吉田世津子、遊牧民の「村」再考-旧ソ連中央アジア・北部クルグズ人と定住化、ユーラシア乾燥地における遊牧民の定住化と社会主義、2013.4.13、名古屋大学

Ippei SHIMAMURA, Ancestral spirits love mining sites: Shamanic activities around the coal and gold mining sites in Mongolia, Geopolitics and Geo-economics of Mongolia's Natural Resource Strategy, 2013.3.19, Cambridge University, UK

Yuki KONAGAYA, Narrative on the socialist life as the legacy of perestroika, IIAS workshop The legacy of perestroika; discourses in knowledge production on Central Asia, 2012.8.25, Ulaanbaatar, Mongolia

島村一平、感染するシャーマニズム-現代モンゴルにおけるシャーマニズムの急激な活性化に関する一考察、文化人類学会、2012.6.23、広島大学

Timur Dadabaev, Eurasianism: Ideas and Implications in Central Asia, Eurasian Studies, 2012.5.31, Istanbul

Ippei SHIMAMURA, Power, Morality, and Ethics: An Ethnographic report on the "Pandemic" of shamanism in contemporary Mongolia, MIASU Seminar, 2012.1.24, Cambridge University, UK

Timur Dadabaev, Ethnic Policies and Soviet Identity in Central Asia, European Association of Central Asian Studies Conference, 2011.9.21, Cambridge University, UK

Ippei SHIMAMURA, Cross Border Exchanges and Ethnic Identity, Pre-Symposium Young Researchers' Workshop, Slavic Research center, 2010.12.3, Hokkaido University

島村一平、増殖するシャーマニズム-モンゴル国ウランバートル市の現状から、日本モンゴル学会、2010.5.15、桜美林大学

島村一平、回廊地域としてのユーラシア草原、2010.3.26、モンゴル科学アカデミー歴史学研究所

〔図書〕(計 18 件)

小長谷有紀ほか 2 名 (共編) 国立民族学博物館、20 世紀におけるブリヤート人たち-

中国内モンゴル自治区フルンボイルにおける口述史、2014、489p.

ティムール ダダバエフ、東京大学、中央アジアの国際関係、2014、273p.

帯谷知可(監修)、京都大学地域研究統合情報センター、トルキスタン集成、2014、CD版

小長谷有紀・スチン(共編)、国立民族学博物館、モンゴル口頭伝承の一資料-モンゴル国ホブド県トルグートのノースタイ氏の語り(日本語、モンゴル語2カ国語版)、2013、221p.

<http://hdl.handle.net/10502/5004>

小長谷有紀ほか2名(共編)、国立民族学博物館、モンゴル国における20世紀(3)ハラホリンにおける社会主義的近代化(日本語、英語、モンゴル語3カ国語版)、2013、377p.

<http://hdl.handle.net/10502/5040>

小長谷有紀、チョローン(共編)、国立民族学博物館、モンゴル国営農場資料集(日本語、モンゴル語2カ国語版)、2013、161p.

<http://hdl.handle.net/10502/4925>

Yuki KONAGAYA interview conducted and edit and compiled by Morris Rossabi, A Herder, a Trader, and a Lawyer: Three Twentieth-Century Mongolian Leaders, 2012, 174p.

<http://hdl.handle.net/10502/4787>

Ippei SHIMAMURA, Ulaanbaatar: Admon, Chingis Khaan khenii baatar ve? (in Mongolian), 2012, 158p.

小長谷有紀・後藤正憲(共編)、明石書店、社会主義的近代化の経験-幸せの実現と疎外、2011、346p.

Timur Dadabaev, Hisao Komatsu, Sahin Karasar, Guljanat Kurmangalieva Ercilasun, Istanbul:Maltepe University, Central Eurasian Studies: Past, Present and Future, 2011, 599p.

Yuki KONAGAYA interview conducted and edit and compiled by Morris Rossabi, Socialist Devotees and Dissenters: Three twentieth-Century Mongolian Leaders, National Museum of Ethnology, 2011, 298p.

<http://hdl.handle.net/10502/4410>

ティムール ダダバエフ、筑波大学出版会、記憶の中のソ連-中央アジアの人々の生きた社会主義時代、2010、270p.

小長谷有紀ほか2名(共編)、勉誠出版、中国における社会主義的近代化、2010、304p.

[産業財産権]

出願状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

[その他]

ホームページ等

<http://www.minpaku.ac.jp/research/activity/organization/staff/konagaya/index>

<http://www.minpaku.ac.jp/research/activity/project/other/kaken/21241059>

6. 研究組織

(1)研究代表者

小長谷 有紀(KONAGAYA, Yuki)

国立民族学博物館・民族社会研究部・教授  
研究者番号: 30188750

(2)研究分担者

帯谷 知可(OBIYA, Chika)

京都大学・地域研究統合情報センター・准教授  
研究者番号: 30233612

ティムール ダダバエフ(TIMUR, Dadabaev)

筑波大学・人文社会系科学研究科・准教授  
研究者番号: 10376626

島村 一平(SHIMAMURA, Ippei)

滋賀県立大学・人間文化学部・准教授  
研究者番号: 20390718

吉田 世津子(YOSHIDA, Setsuko)

四国学院大学・社会学部・教授  
研究者番号: 70352086

(3)連携研究者

( )

研究者番号: